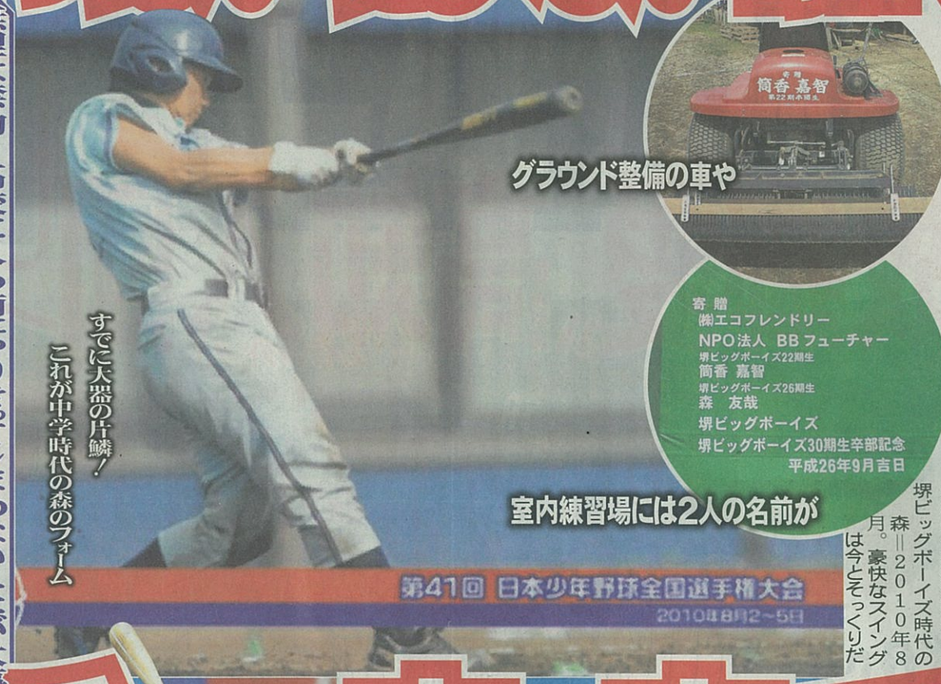
球界を代表するスラッガーとなった2人…豪快打撃のルーツは同じだった！

「おなかいっぱいにしない指導」が 筒香 森を育てた

無理は禁物！高校に入る前にやりきってしまわないことが大事



グラウンド整備の車や

練習場を寄付

寄贈
㈱エコフレンドリー
NPO法人 BBフューチャー
堺ビッグボーイズ22期生 筒香 嘉智
堺ビッグボーイズ25期生 森 友哉
堺ビッグボーイズ
堺ビッグボーイズ30期生卒部記念
平成26年9月吉日

堺ビッグボーイズ時代の森＝2010年8月、豪快なスイングは今とそっくりだ

堺ビッグボーイズ時代の筒香＝2010年8月、室内練習場には2人の名前が

球宴ファン投票でセ・パのトップを走る2人のルーツは同じだった!! DeNA・筒香嘉智外野手(23)と、西武・森友哉捕手(19)は中学時代、ともに大阪のボーイズリーグ「堺ビッグボーイズ」に所属していた。豪快な打撃が魅力のスラッガーはいかにして育ったのか？ 2人の原点を恩師・瀬野竜之介代表(45)に聞いた。

（取材構成・塚沢健太郎）

球宴ファン投票でセ・パトップ

森は自主練習でいつもサッカー

大阪府の南東、河内長野市の小高い山の上にある広大な専用グラウンド。この緑豊かな環境で、筒香と森は育った。

「『どういう練習をして筒香や森のような選手が育ったんですか？』とよく聞かれるんですけど…。チームの方針は『おなかいっぱいにしない』『型にはめない』、『楽しませる』。森なんかいつも自主練習でサッカーをしていましたよ」

若き大砲2人の〝生みの親〟瀬野代表は、意外な指導方針を明かした。

かつては厳しく指導していたが「中学ですごかった選手が、高校で順調に育っていないと感じた」と指導法を転換。

「おなかいっぱいにしないとは中学時代にやりきってしまわないことだという。休日の午前8時半から午後2時までの練習時間は他のチームより短く、投手には球数制限を設け、大事な試合でも交代させる。決して無理はさせない考えだ。

「勝つことを求めると、プレーが小さくなる。僕らの仕事は可能性を広げ、一番は野球を嫌いにさせないこと。森はやんちゃだったから『あまり締め付けられたら、野球をやめていました』とどこかで話していたそうです」

取材日の午前中は、打撃や守備で好きなことをする自主練習だった。同代表は「自分で決める習慣をつけさせる。あれをしろ、これをしろでは、子供の想像力は広がらない。筒香も森も自分で考える力を身につけているが、今になって生きていると思う」。

ただ、1点だけ指示をしたことがある。筒香や森が時から限られたメンバーは、打撃練習で木製バットを使用する自主練習だった。同代表は